

令和7年度 日本大学危機管理学部 個人研究費 研究実績報告書

所属：危機管理学部 危機管理学科

資格：教授

氏名：木村 敦

研究課題名	リスク認知の特性に関する認知・社会心理学的研究
研究目的及び研究概要	<p>リスク認知に関しては、楽観バイアスをはじめとして様々なバイアスがあることが知られている。このようなリスク認知の特性やバイアスの把握は、危機管理領域の実務や教育、環境設計においても重要である。申請者は、危機管理領域に関するテーマ（防犯、防災、避難、ヒューマンエラー等）を題材として、リスク認知がどのように危機管理に関わるかについて理論的・実証的に示す研究を継続的に実施している。令和7年度はリスク認知を踏まえた犯罪予防対策に関する検討を中心として研究を進めた。</p>
研究実績の概要 研究の進捗状況・得られた成果・今後の課題・研究実績等	<p>[研究の進捗状況] 令和5年度から実施している神奈川県都筑警察署との協働において「地域住民の体感治安・犯罪予防行動」に関する調査の実施と分析を研究課題の一環として進めた。</p> <p>[得られた成果] 「地域住民の体感治安・犯罪予防行動」に関する調査分析の結果、まず、地域住民の体感治安が、実際の犯罪認知件数ではなく楽観バイアスに基づいてポジティブに評価されることを見出した。また、地域の犯罪予防に関して、地域美化運動が有効と感じているものが多いことや、自転車盗難被害防止に関して、見通しのよい場所であれば短時間無施錠で駐輪されやすいことが示唆された。これらの結果は地域住民の心理に基づく今後の地域防犯施策に活用できるものであり、警察署に報告するとともに、『危機管理学研究』に論文として発表した。</p> <p>[今後の課題] 学術的な研究成果を報告するのみならず、その結果示唆される有効な対策に関する提案、およびその地域安全施策への実装や効果検証に関しても協働を進める必要がある。この点については論文内にも今後の課題として論じた。</p> <p>[研究業績] 1) 木村敦（2026.3）. 住民意識調査に基づく地域犯罪予防の課題抽出 ―神奈川県都筑警察署との協働事例― 危機管理学研究, 10, 32-49.</p>